



図書館の仕事 自動書庫編

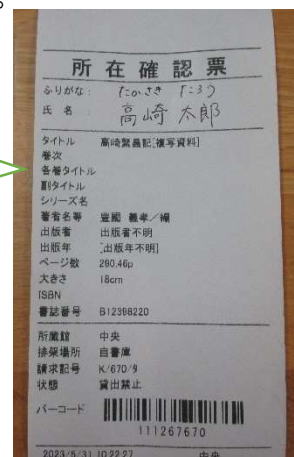
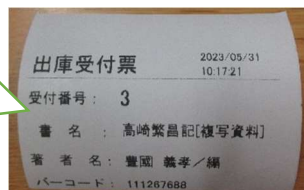
今回は中央図書館にある「自動書庫」をご紹介します。ここには図書館の棚に入りきらなくなった資料や、古くなった資料が保存されています。資料の出納はパソコンを使って行います。

「自動書庫」からどうやって資料を取り出しているのか見てみましょう。

窓口で自動書庫の資料を見たいという依頼があると、所在確認票に名前を記入していただき、職員がパソコンで出庫の指令を出します。

皆さんには受付票という数字が書かれた紙が渡されます。これが、自動書庫から出された資料との引換券になります。

※1回の申請で図書は10点、視聴覚は5点まで受け付けています。



自動書庫の中からその資料が入っているコンテナが引き当てられて、カウンター奥にある取り出し口に出庫されます。



取り出し口脇に設置されたパソコンで出庫の手続きをします。



貸出カウンター脇のホワイトボードに受付票の数字を書きこみます。
受付票の番号を確認して、資料を渡します。

1階から自動書庫の動いている様子が見られます！

※出庫の受付は閉館15分前までです！



自動書庫は群馬県内では高崎市立中央図書館だけに入っているもので、40万冊もの資料を収納することができます。故障すると中の資料が取り出せなくなってしまうというデメリットもありますが、人が書庫内に入って探すよりも早く資料を提供できる便利な機械です。皆さんにスムーズに書庫内の資料を提供できるよう、自動書庫も頑張っています！

一般書

『平日おひるごはん』

おひるごはん研究会 編集 Clover 出版

毎日のお昼ごはん、どんなものを食べていますか？
世間の人たちがどんなごはんを食べているのか、興味はあってもなかなか見られないのもの。
総勢 92 人のお昼ごはんは見応え十分です。

『スポーツ毒親』

鳥沢優子 著 文藝春秋

“親のサポート”の域を超え、わが子のスポーツでの活躍に熱中し必死になる大人たち。支えているはすが、関わりすぎていないか。子どものスポーツ参加の意義とは何か。本書を読んで考えたいです。

No
Image

No
Image

郷土

『17歳のポケット』（新装版）

山田かまち 著 集英社

高崎に生まれ育ち、17歳という若さでこの世を去った山田かまち。彼が残した数々の詩や絵画は、45年以上経った今も決して色あせることなく私たちの心に響きます。若い世代の人たちにもぜひ手にしてもらいたい一冊です。

『群馬のカレーバイブル』

齊藤孝 監修 アフルメーション

みんな大好き、カレー大集合！本格的なインドカレーから個性派カレー、カレーうどんにカレーパンまで、著者がおすすめする群馬のお店を紹介します。お気に入りの一軒を見つけてみてはいかがでしょうか。

No
Image

図書館員のおすすめ

視聴覚

CD 『シンフォニック・クアルティーナ』

ラ・クアルティーナ

4人のチェロ奏者によるアンサンブル。
美しいマーラーの「アダージェット（交響曲第5番第4楽章より）」から始まる珠玉の一枚です。

DVD 『おいしい家族』

【監督/脚本】ふくだももこ

【出演】松本穂香 板尾創路

母の三回忌に故郷の離島に帰った橙花は、亡き母のワンピースを着ている父からパートナーの男性を紹介される。初めは状況が飲み込めない橙花だったが、個性を受け入れるおおらかな人たちと交流していくうちに自分らしく生きることの大切さに気づいていく。あたたかく優しい世界観に心がほっと落ちつきます。



『台所のマリアさま』

ルーマ・ゴッデン 著 評論社
猪熊葉子 訳

少年グレゴリーの家に住み込みで働くマルタは戦争難民のウクライナ人。家に「いい場所がない」と悲しむマルタのために、グレゴリーはマルタの故郷にちなむものを作ろうと奔走します。心温まる、読み終わるのが惜しくなる物語です。

『ちびくまんとおほしさまのき』

はらだよしこ 作 講談社

ある晩ぱくまとおほしさまのきを見にでかけることになったちびくまんですが、夜のくらやみがこわくてしかたがありません。そんなちびくまをぱくまは優しく見守ります。やがておほしさまのきにたどりつくとき…
心がじんわりあたたかくなる絵本です。

児童

No
Image



写真でみる

高崎今昔



著・高崎市立中央図書館長

第6回 記憶の中の群響 前編

【移動音楽教室】

私の遠い記憶の中に小学校の寒い講堂でオーケストラの演奏を聴いた覚えがあり、全部で何曲演奏されたかはわからないが、目と耳に焼き付いているものが2曲あります。

一つは「アメリカンパトロール」、もう一つは「クシコスポスト」。前者は軽快なマーチで小太鼓の奏者に見入っていました。そして後者は記憶が定かでないが、オーケストラの演奏ではなく、ピアノの連弾だったかと思います。「クシコスポスト」は「クシコスの郵便馬車」とも呼ばれ、その後この曲を耳にするとピアノの演奏風景を思い出したものです。

図書館に『群馬交響楽団50年史』という立派な本があります。その本には1945(昭和20)年度から1995(平成7)年度までの演奏記録が綴られています。私の移動音楽教室の記憶は塚沢小学校在学時なので、本を手繰って1962(昭和37)年度から1967(昭和42)年度まで小学校6年間の記録を調べてみました。すると1964(昭和39)年12月17日に塚沢小学校で演奏した記録がありました。真冬の暖房もない講堂なのだから、演奏する団員さんも聴く生徒も寒かったことでしょう。

年度によってプログラム不詳の年もありますが、この年の移動音楽教室のプログラムに、まぎれもなく「アメリカンパトロール」、「クシコスポスト」の二曲があり低学年向きと付記してありました。演奏以外では司会の丸山勝廣さんが色々な楽器の紹介をしてくださったと記憶しています。

私がクラシック音楽を好きになったのは間違いなく群響のおかげです。この後、親しみやすいウイナワルツやマーチから、徐々に交響曲や協奏曲と聴いていくようになったのも、やはり群響で生の音に親しんだことが大きかったのでしょう。東京への出張帰りや旅先でも、予定が合えば各地のホールで色々なオーケストラの演奏を聴いたものでした。



昭和20年代後半の移動音楽教室
(群馬交響楽団提供)



昭和20年代後半の移動音楽教室
(群馬交響楽団提供)



昭和36年 議場で演奏する群響
(中央図書館所蔵)

中央図書館 開館時間

火曜～金曜 10時～20時
土日祝日・月曜 10時～17時

